

2018年8月12日（日）メッセージアウトライン「愛と自由と責任」

聖書箇所：創世記3：14～19

タイトル：「愛と自由と責任」

テーマ：神は私たちを愛しておられる、そのとおり。では、あなたがその愛を実感するのはどのようなときでしょうか。

「神が愛であるというなら、なぜ、神は愛している人間をもっとしっかり神のもとにつなぎとめる方法を用いなかったのでしょうか」とか、「人間の意志に任せて失敗したからといってエデンの園から追放するのはひどすぎるのではありませんか」と文句を言う人もいますが、果たしてそうでしょうか。

今日の聖書箇所から、愛は自由意思を行使できる関係の中でしか本当の愛とは言えないものであること、自由意思を行使するにあたって、自由に選択できる中で責任のあり方、以上のものを、神は創造のはじめから、人間との関係において大切におられた事柄であることを再確認します。神との関係をイエス・キリストにあって、回復させていただいた私たちは、この3つをどのように捉えて日々を過ごしているのでしょうか。

1. はじめに

①エデンの園の様子を想像してみてください（創世記2：7～9）

*エデンの園に置かれた人間

*見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木が生えていた

*園の中央には、いのちの木、それから善悪を知る知識の実が生えていた

豊かな光景の広がり

2. 豊かな光景の中での唯一の命令

①「してよい」こと

「してはいけない」の前に「してよい」こと

②「してはいけない」唯一のこと

「善悪の知識の木から取って食べてはならない」→もしそうするなら、その結果必ずあなたは死ぬ

③神はなぜこのような命令を出されたのか

*自由意思を働かせて、選び取ることの大切さを教えるため

*人間をロボットのように扱わないため（人格を持つ者として）

*「神のかたち」とは？

3. 自由と責任の関係

①愛の関係は、互いにイエスとノーを自由に言える関係の中で成り立つ

②自由意思を用いて間違っただ選択をした結果、陥った窮地

③自由意思で選び取った結果への責任

*刈り取るべき実

4. ゲッセマネの園におけるイエス・キリストの究極の選択

①父なる神のひとり子の神として

*父なる神への深い愛と限りない信頼

*キリストご自身の自由意思による決断

②聖書の登場人物が迫られた決断

5. 結論

①自由意思を与えて下さったことの中に示された神の愛

②人間がしょい込んだとんでもない結果

③クリスチャンが自由意思を正しく働かせることができるために